湧網線開通後の共立地区の市街地

『共立百年史』から抜粋・編集

＊「湧網線開通当時」

昭和28年、湧網線の全線開通により、共立部落はそれまでの農家の点在する農村風の部落から駅を中心とした部落が形成されていったのである。

駅の西側には農協倉庫が建ち、肥料・生産資材は、北見共立駅で受け取れるようになった。また、農協倉庫横には鉄鉱石積場ができ鉄鉱石が貨車積みされた。

駅前の道々沿いには雑貨店が5軒建ち並び、食堂、集乳所、雪印職員住宅、針田鉱業事務所、理容院、駅10号横に国鉄職員住宅17戸、日通住宅、精米所等が建ち並び、加藤木工場も移転建築した。鉄道開通前は原野であったところに一大市街地が出現し、共立の黄金時代に入っていくのである。

＊「商工業」

昭和27年11月20日、湧網線常呂・下佐呂間間の開通によって北見共立駅が設置されてから、日通出張所、針田鉱業出張所、雪印集乳所などが開所される。

その後、加藤木工場、藤の屋食堂、小栗商店、馬渕商店、小島商店、杉野商店、昭和29年にはパチンコ店が開業する。

30年、鷲見理容院が開業する。各商店ができ、市街地として形成された。

＊「としつき流れて」馬渕つよ子

…私たち一家は店を営むべく豊川から共立地区に移住したのは、湧網線が全線開通した昭和28年10月22日の1ヶ月前であり、現在の木屋英明さんのところで、皆さまの温かいご愛顧をいただき、24年間食料品店を営業させていただきましたことに、まずもって心から感謝を申し上げる次第であります。

当時は農地改良のため軌道客土工事が実施されており、従業員宿舎もあって活気に満ちあふれていました。

昭和30年代の共立地区には日本通運や国力鉱山の詰所、木工場、建具屋、精米所、飲食店、床屋、パチンコ店、雪印集乳所、食料品などがあり、駅を中心に市街地を形成していました。

夏には部落共同作業の側溝清掃、大排水草刈りは年中行事として毎年実施され、共同作業の終了後の団らんは地域住民のふれあいの場でありました。

そうして35年の秋から各地区の親睦と発展を高める趣旨のもとに地区別対抗大運動会（共立・豊川・富丘・福山）が開催（注：9月23日）され、第1回の優勝が共立地区であった思い出は記憶に新しい。この地区運動会は、各地区が仲良く1回ずつ優勝して終わっています…。

＊「共立を思い出して」小島リセ

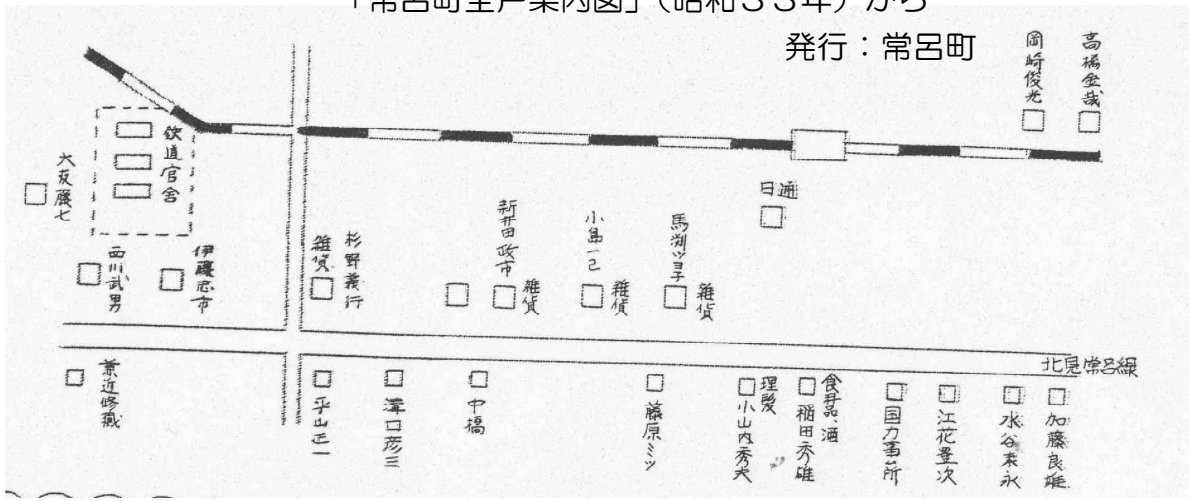
…昭和28年、湧網線が開通するのと同時に豊浜から共立に移ってきました。駅の近くで店をしていましたが、当時の共立は駅の開通に合わせ店が次々とでき、また日吉の鉄山からは鉱石が駅に集積され、毎日貨車で輸送されるようになり、農産物も共立に集まるようになり、豆機関車による川から肥えた土を畑に入れる客土事業も行われており、道内からの出稼ぎの方々も大勢見えており、部落の件数も今よりずっと多く、また子供も4～5人という家庭が多かったので、共立の一番人が多くいた時代でもあり、活気のあった頃ではなかろうかと思います。

裏の空き地や鉄道官舎で走り回って元気に遊ぶあの頃の子供たちは上下ツギの当たったものばかり着ていましたが、文句一つ言わず家の手伝いをし、遠い豊川までの学校へ歩いて通った姿が思い出されます。

…私は店をしていた関係で、多くの人たちと接することができました。店に来るお客さまとお話しするのが大変好きでした。共立の人たちは心根の優しい人たちばかりで、ついつい長話になってしまうことが多かったと、今は懐かしく思い出します。

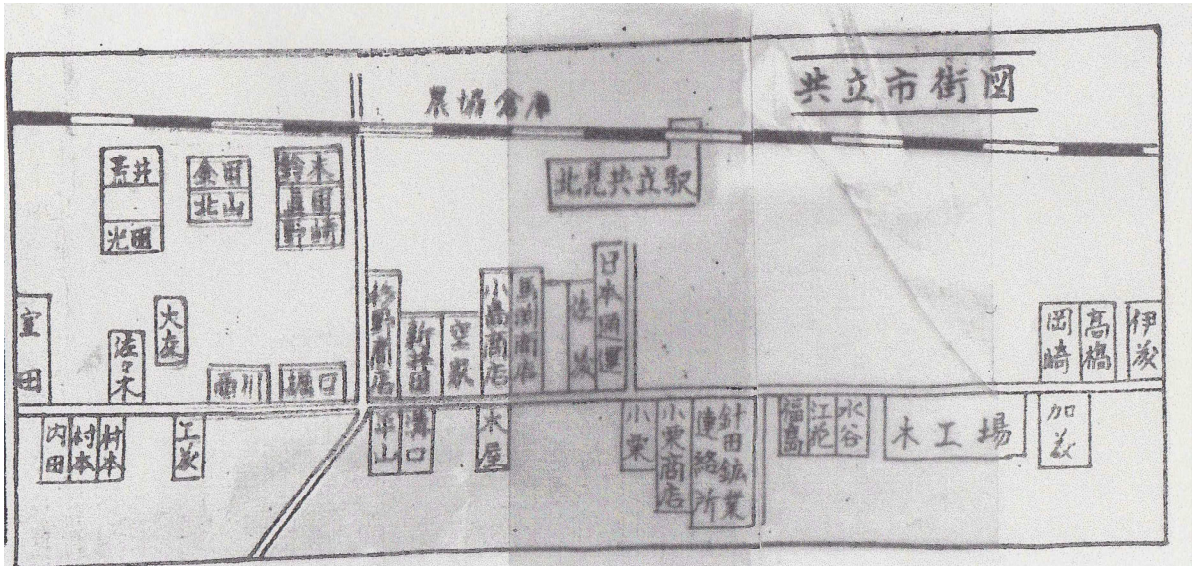
「常呂町全戸案内図」（昭和３３年）から

発行：常呂町

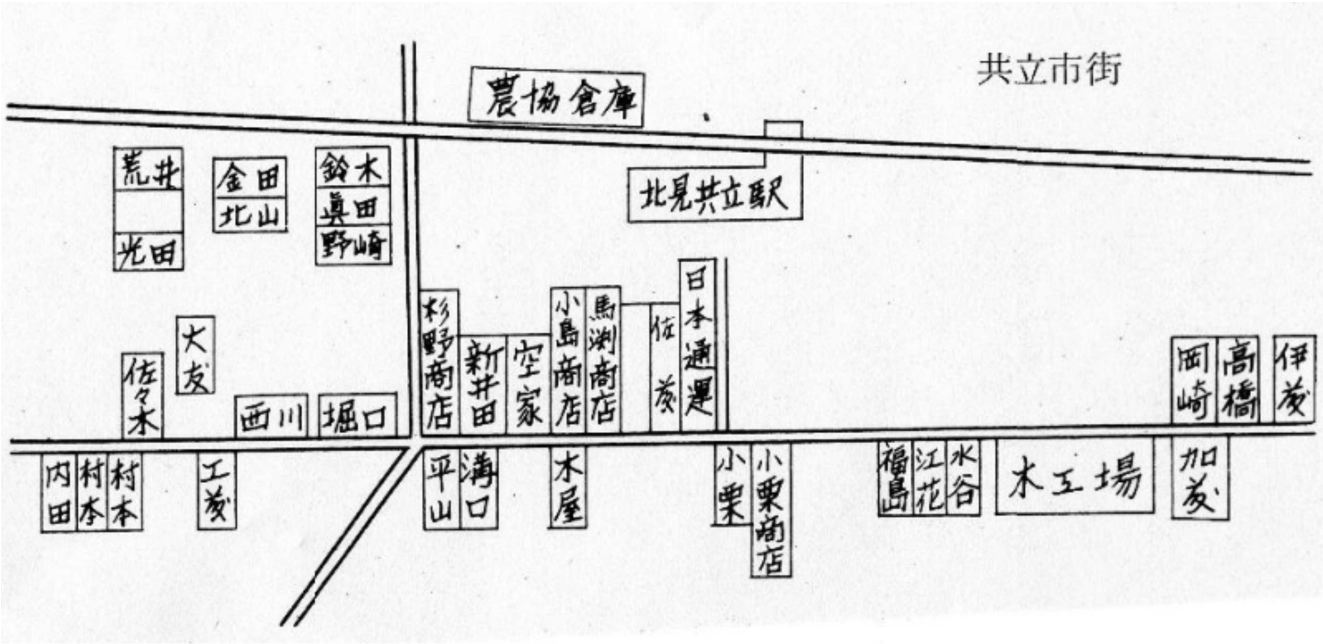


「常呂町農村戸別明細図」（昭和３９年）から

発行：常呂町



「常呂町史」（昭和４４年）から
発行：常呂町　＊地図データは昭和４２年



＊「常呂町農村戸別明細図」と違うのは、小栗商店右のあった
針田鉱業国力鉱山（昭和３９年１０月閉山）の事務所がないこと